

文化財をたずねて

No.24

赤穂の秋祭りをたずねて①
～赤穂市北部編～

発行 赤穂市教育委員会
編集 生涯学習課文化財係
(赤穂市加里屋 81 TEL 43-6962)

一般的に秋祭りとは、秋に行われる神社の祭礼を指す。その多くは収穫した農作物を氏神に供え、収穫を感謝する祭礼である。秋祭りは全国各地、その土地の風土に合わせた多様な祭礼・行事が行われるが、赤穂市をはじめとする播磨地域では、屋台行事と獅子舞が有名である。特に「播磨は獅子どころ」といわれるほど獅子舞は盛んで、市内の秋祭りでも必ずといっていいほど獅子舞が登場する。

現在、市内全体では主な神社 30 ヶ所において秋祭りが行われており、各地区の秋祭りはそれぞれの神社・地区の歴史と特色が現れている。獅子舞だけをみても各地区で演目・囃子などが全て異なり、登場する役も多彩である。特に赤穂市北部では獅子のほか、鼻高（天狗）・唐子・お多やん（おかめ）・坊さん（ひよっこ）・サル・キツネなど、各地区で異なった役が登場し、多彩な舞を披露する。また、船渡御や頭人行列、神輿巡行などの祭礼もその地区の個性を表現しており、興味深い。

このような地区の祭礼や獅子舞の多くは、一旦中断したものが地元有志の努力で復活したものも多い。市内各地でみられるバリエーション豊かな祭礼や獅子舞は、地区の伝統を復活・継承させようとする地域住民の方々の努力の賜物である。

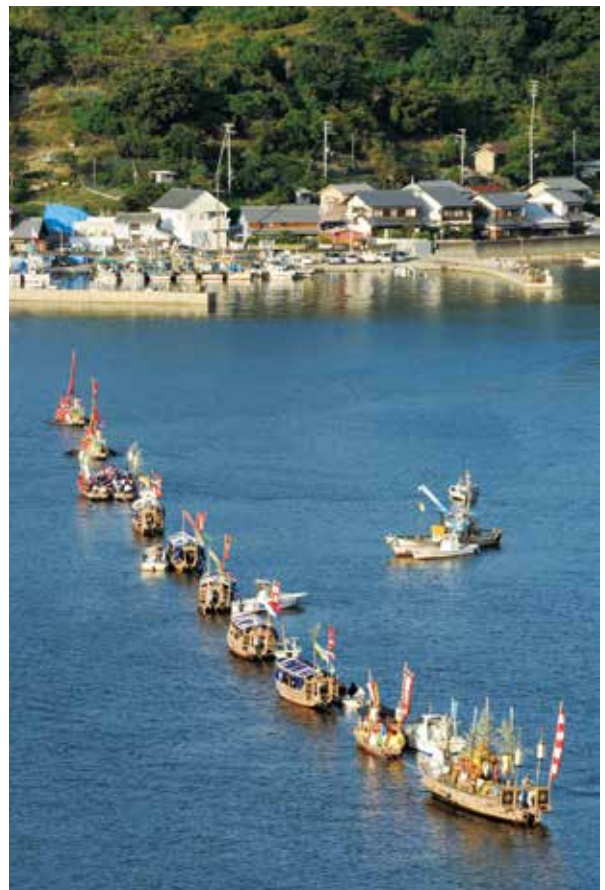
①「坂越の船祭」(坂越・大避神社・10月第2日曜)

坂越地区の大避神社は秦河勝・天照皇大神・春日大神を祀る。創建年は不明だが、皇極天皇3（644）年に漂着した秦河勝を祀るために創建されたとの伝承がある。

祭礼では神社から生島にある御旅所まで「船渡御」が行われる。船渡御は神輿船や獅子船など多様な船が11艘ほど並ぶ大規模なもの。また、頭人行列や神幸行列、獅子舞奉納やバタ掛けなどの行事も行われ、江戸時代の祭礼を今に伝える祭りは見どころが多い。平成24年には国の重要無形民俗文化財に指定されている。



神幸行列の先頭を行く獅子舞



坂越湾を進む船渡御

②「尼子神社の秋祭り」(高野・尼子神社・10月第3日曜)

高野地区の尼子神社は、背後にある尼子山城を築いたとの伝承のある尼子将監義久を祀る神社。

秋祭りでは神事・子供神輿・獅子舞奉納が行われる。祭礼行事は田端・高野・上高野の3地区の当番制となっており、その年に担当する地区によって内容が異なっている。伝承されている獅子舞は、相生市相生地区から伝わったものであるといわれている。



子供神輿巡行



獅子舞宮入

③「荒神社の秋祭り」(上浜市・荒神社・10月第2日曜)

上浜市地区の荒神社は火魂神を祀る神社。宝寿山西山寺の境内にある。

秋祭りでは神事・獅子舞・子供神輿・子供獅子舞奉納が行われる。獅子舞は一時中断していたが、現在は復活し、獅子舞は子供獅子と一緒に舞う特徴的な舞となっている。



獅子舞宮入



獅子舞奉納

④「荒神社の秋祭り」(浜市・荒神社・10月第2日曜)

浜市地区の荒神社は火魂神を祀る神社。当初は小規模な祠であったが、昭和初期に現在のような社殿に建て替えられた。昭和初期までは上浜市地区より獅子舞の舞手が来訪し、獅子舞の奉納を行っていたという。

秋祭りでは神事・子供神輿の巡行を実施している。



子供神輿の巡行

⑤ 「荒神社の秋祭り」(砂子・荒神社・10月第2日曜)

砂子地区の荒神社は火魂神を祀る。かつては現在地より100m東方の山麓にあったとされるが、大正末から昭和初期に現在地に遷座したといわれている。

秋祭りでは神事・獅子舞のほか、子供神輿・子供獅子舞が行われる。獅子舞奉納は江戸時代から行われていたと伝承されている。



獅子舞宮入



子供神輿

⑥ 「天満宮の秋祭り」(北野中・天満宮・10月第2日曜)

北野中地区の天満宮は菅原道真を祀る神社。境内には安政2(1855)年銘の手洗石がある。

秋祭りでは神事・子供神輿を行っている。獅子舞は数年前まで行っていたが、現在は中断している。獅子舞は「お多やん」が宮入の行列を先導する特徴的な舞であった。



子供神輿の巡行

⑦ 「大避神社の秋祭り」(中山・大避神社・10月第2日曜)

中山地区の大避神社は秦河勝を祭神としている。中山地区は江戸時代には尾崎・赤穂八幡宮の氏子であったが、明治時代には東有年・八幡神社の氏子となった。現在では中山・大避神社の氏子となっている。

秋祭りでは神事・獅子舞奉納が行われている。獅子舞は昭和20年代の初めに中断したが、地元有志の努力により昭和50(1975)年に復活し、現在まで続けられている。獅子舞は「獅子」のほか、「天狗」(鼻高)・「唐子」・「猿」・「狐」が登場する賑やかな舞となっている。



獅子舞練りこみ



獅子舞奉納(演目「狐」)

⑧「天満宮の秋祭り」(真殿・天満宮・10月第2日曜)

真殿地区の天満宮は菅原道真を祀り、かつて周世から有年地区へ抜ける道沿い(千種川の東岸)にあったものを現在地に遷したものとされる。真殿地区はかつて周世・八幡神社の氏子であったが、村の鎮守として天満宮を現在地に祀ったと伝承されている。

秋祭りでは神事・獅子舞奉納が行われる。獅子舞は昭和20年代に中断していたが、昭和30年代に有志の努力によって復活した。獅子舞では獅子のほか、「鼻高」・「お多やん」が登場する。獅子舞は高雄・荒神社から伝わったものとの伝承があるが、拝殿で神事を終えた鼻高たちが石段をゆっくりと降りてくる「帰り」の舞は地区独自のものである。



獅子舞奉納



獅子舞奉納(演目「帰り」)

⑨「八幡神社の秋祭り」(周世・八幡神社・10月第2日曜)

周世地区の八幡神社は誉田別命(応神天皇)・息長帯姫命(神功皇后)・竹内宿禰の三神を祀るほか、かつて存在した周辺の神社を多く合祀している。

秋祭りでは神事・獅子舞奉納・抽選会などの催事が行われる。獅子舞には「獅子」のほか、「天狗」・「唐子」・「お多やん」・「猿」が登場する。「天狗」の装束は鹿の毛皮が使われており印象的である。また、「猿」は近年復活した役で、演目「吉野」で登場し、獅子をからかうユーモラスな舞を披露する。



獅子舞奉納(演目「吉野」)



獅子舞奉納

⑩「荒神社の秋祭り」(高雄・荒神社・10月第2日曜)

高雄地区の荒神社は火魂神を祀る神社。かつては西山の南側にあったと伝わる。

秋祭りでは神事・獅子舞奉納が行われる。獅子舞では「獅子」のほか、「鼻高」・「お多やん」・「坊さん」が登場し、「お多やん」が2人いること、法師の装束で腰からスルメをぶら下げた「坊さん」がいることなどが特徴である。

宮入の際には「鼻高」の動きに合わせ、「お多やん」は傘を、「坊さん」は播粉木を振りながら舞う。「竹に雀」とよばれる独自の演目があり、「お多やん」や「坊さん」が周囲の観客を獅子の中に引き入れるコミカルな舞が見どころである。



獅子舞宮入



獅子舞奉納 (演目「竹に雀」)

⑪「荒神社の秋祭り」(目坂・荒神社・10月第2日曜)

目坂地区の荒神社は素戔鳴尊を祀る。真殿へ通じる峠道に鎮座しており、真殿からの移住者が建立したのではないかと考えられる。

秋祭りでは神事・獅子舞が行われる。獅子舞は戦前には行われており、鷓和地区から伝わったとの伝承がある。獅子には子供獅子舞もあり、大人と子供の獅子が同時に舞うのが特徴となっている。



獅子舞宮入



獅子舞奉納

⑫「大避神社の秋祭り」(木津・大避神社・10月第2日曜)

木津地区の大避神社は秦河勝を祀る神社で、明暦2(1656)年に大工山の麓に建立されたと伝わる。伝承では、坂越に漂着した秦河勝が千種川を遡り、この場所に上陸したのだという。

秋祭りでは神事・子供神輿・獅子舞奉納が行われる。獅子舞では「獅子」のほか、「鼻高」「お多やん」「坊さん」が登場する。「お多やん」が2人いることなどが特徴となっている。

獅子舞を市内の鷺和地区や上仮屋地区へ伝えたとの伝承があり、獅子舞が盛んであったことがうかがえる。舞の演目も12種が伝承されており、多彩な舞を見ることができることも特徴。



獅子舞宮入



子供神輿巡行

⑬「大避神社の秋祭り」(西有年・大避神社・10月第3日曜)

西有年地区の大避神社は秦河勝を祀る神社で、かつて存在した周辺の神社も多く合祀している。

秋祭りでは神事・獅子舞・浦安の舞奉納、餅まきなどの催事が行われる。獅子舞は長く途絶えていたが平成18(2005)年に復活し、あわせて浦安の舞も奉納されるようになった。

浦安の舞における雅楽の演奏は地元の楽人が演奏を行う。獅子舞は各地区の当番制で、上地区・下地区で舞や演目が異なっている。「獅子」と「鼻高」のほか、下地区では「猿」も登場する。演目「昇肩」では肩車をする獅子や前後の舞手の早変わりなどがあり、芸獅子の要素が強い舞は見ごたえがある。



獅子舞奉納(演目「昇肩」)



浦安の舞奉納

⑭「八幡神社の秋祭り」(東有年・八幡神社・10月第2日曜)

東有年地区の八幡神社は誉田別命(応神天皇)・帶中津日子命(仲哀天皇)・息長帶姫命(神功皇后)の三神を祀るほか、かつて存在した周辺の神社を多く合祀している。創立年代は不明だが、かつて上郡町山野里にあった御神体が洪水で東有年地区へ流れ着き、それを祀ったのが起源との伝承がある。祭りで使用される金幣には元禄13(1700)年の銘がある。

秋祭りは神事・頭人行列・流鏝馬神事が行われ、神社の東約800mにある御旅所まで練り歩く。頭人行列は「お渡り」とよばれ、屋台1基と頭人の乗った豪華な神輿3基が行列を成して御旅所へ向かう。頭人は小学生が務める稚児頭人で、頭人の家であることを示す「オハケ」とよばれる目印を設置するなど、古い祭礼の形態が残り、市の重要無形民俗文化財に指定されている。



神輿と稚児頭人



御旅所までのお渡り

⑮「八幡神社の秋祭り」(有年牟礼・八幡神社・11月第1日曜)

有年牟礼地区の八幡神社は誉田別命(応神天皇)・帶中津日子命(仲哀天皇)・息長帶姫命(神功皇后)の三神を祀り、かつて存在した周辺の神社を多く合祀している。

社伝によれば、かつて周辺の住民は周世八幡神社の氏子であったが、峠(周世坂)を越えての参拝は難しく、永正2(1505)年現在の横尾地区松ヶ瀬に別宮を建立することとなったという。その後、慶長年間(17世紀初頭)に現在地へ遷座したといわれている。

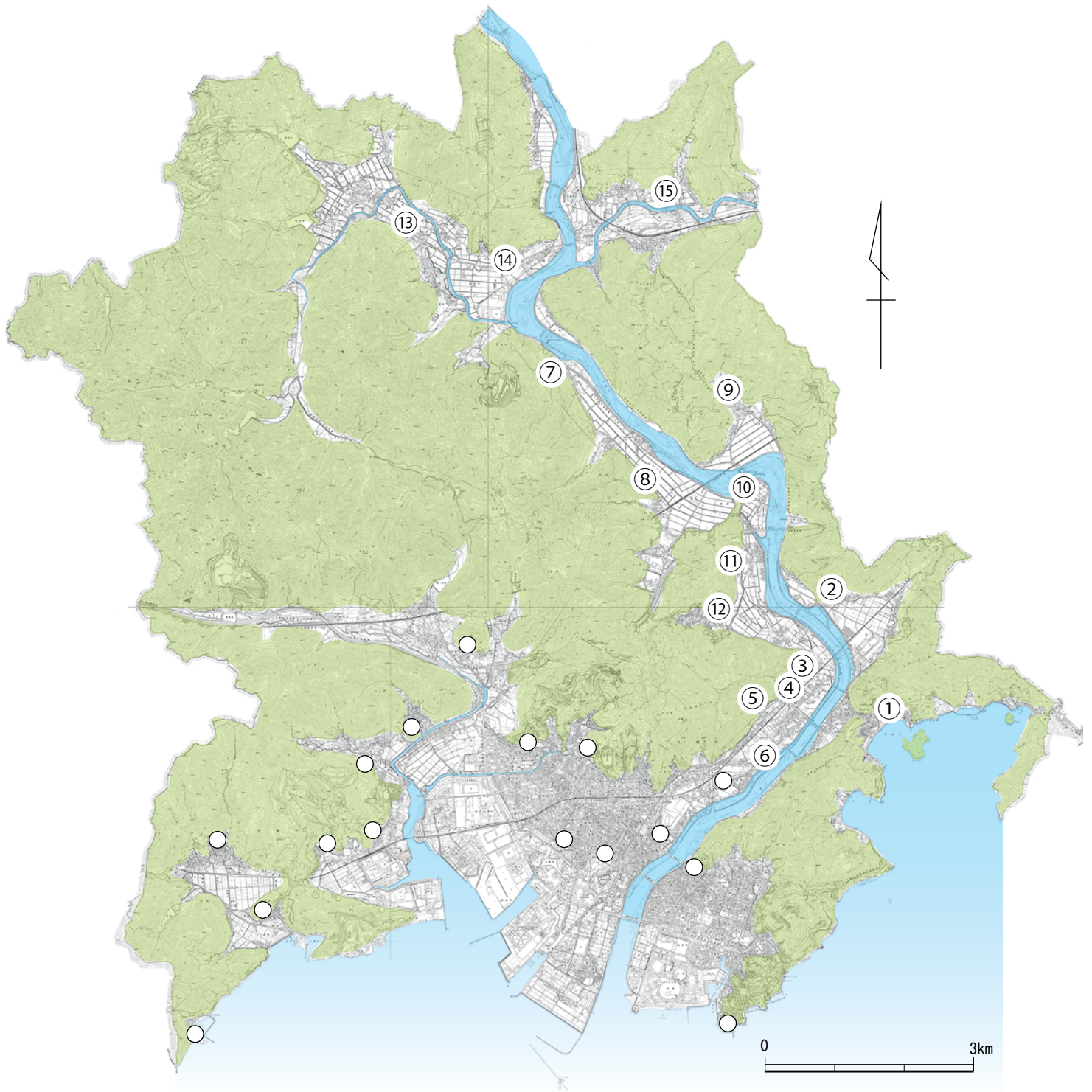
秋祭りでは神事・獅子舞奉納・子供神輿巡行のほか、餅まきなどの催事が行われる。獅子舞には「獅子」のほか、「鼻高」・「唐子」・「猿」・「狐」が登場する。祭礼は原・牟礼・横尾の3地区が当番制で行っており、担当する地区によって催事や獅子舞の内容が異なる。神社境内には市内で唯一、農村舞台が現存し、昭和30年代後半までは本宮の夕方から芝居や浪曲が披露されていた。



子供神輿の練り合わせ



獅子舞奉納(演目「吉野」)



- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-------------|
| ① 坂越・大避神社 | ⑤ 砂子・荒神社 | ⑨ 周世・八幡神社 | ⑬ 西有年・大避神社 |
| ② 高野・尼子神社 | ⑥ 北野中・天満宮 | ⑩ 高雄・荒神社 | ⑭ 東有年・八幡神社 |
| ③ 上浜市・荒神社 | ⑦ 中山・大避神社 | ⑪ 目坂・荒神社 | ⑮ 有年牟礼・八幡神社 |
| ④ 浜市・荒神社 | ⑧ 真殿・天満宮 | ⑫ 木津・大避神社 | |

秋の祭礼・獅子舞等を実施している神社

本パンフレットを作成するにあたり、各地区の自治会・保存会のみなさまにご教示いただくとともに、多大なるご協力をいただきました。最後になりましたが、ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

※赤穂市南部編は次号掲載予定です。